

# 冬期合宿は石垣島で！第1回IOM2023開催！

## ISHIGAKIJIMA OPTIMIST MEETING 2023

IOM2023 実行委員会 編集

このイベントは、寒い冬の期間、温暖でいい風の吹く石垣島で、地元セーラーと一緒に練習して、お互いのセーリング技術の向上と選手間及び、クラブ間での交流、親睦を計り、将来的には、石垣島が冬期合宿の拠点となり、日本及び、世界のセーリングスポットとして発展することを目指すイベントです。MEETINGとなっているのは、ジュニアセーラーが一同に集まってくれることを願ってつけた名称です。

また、このイベントの目的には、セーリング以外でも日本では数少ない亜熱帯地域である自然豊かな八重山諸島を満喫することも含まれています。沖縄の原風景が残っている竹富島や世界自然遺産である西表島など見るべきところはたくさんあります。

今回参加したのは、石垣ジュニアヨットクラブの選手12名と本州、沖縄本島から参加した選手6名の計18名、コーチ、スタッフ、ボランティア、保護者等総勢約40名が参加しました。

それでは、順を追って活動内容を見ていきましょう。

### 12月25日（月） 初日

この日は移動の関係もあって、顔合わせと、艇の整備。そして今日はクリスマス！もちろんクリスマス会も兼ねた交流会を開きます。ここ石垣港フィッシャリーナは石垣空港から車で約30分というとても利便性の良いところにあります。



このイベントのために用意されたOP艇がずらっと並んでいます。古い艇もありますが、強風でもトラブルがないようしっかりと整備されています。石垣ジュニアヨットクラブの熱意が伝わってきます。





セッティングの確認です。明日から3日間乗る艇を入念に整備して、不備がないようにします。



クリスマス会に用意された素敵なケーキです。さあ、ジュースで乾杯だ!!!



今回、イベントのために用意された豪華な賞品が並んでいます。モチベーションを上げるため、事前に公開されました。でも、簡単にはゲットできません。その理由は後ほど。

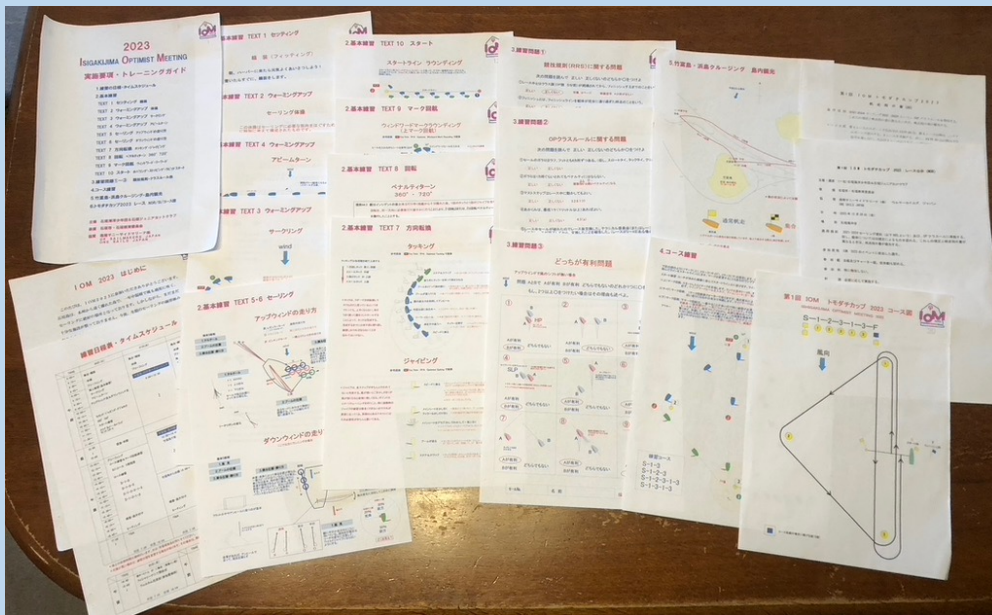


明日から一緒に練習をする選手たち、心持ちまだ、緊張感がみなぎっていますが、そんなのは時間の問題かな。



12月26日（月） 2日目

今日のメニューは午前中は基本練習。午後からはコース練習です。ウォーミングアップとして、セーリング体操、サークリング、アビームターン、隊列全体帆走はアップウィンド、ダウンウィンドをタック、ジャイブも入れて上下で3往復、スタート練習をして最後に上下マークの回航練習をします。午後は、マークを3個打って、コース練習、決められたコースを練習時間いっぱいまでやります。実は練習がスムーズに行えるように事前にトレーニングガイドを作成して、読んでもらっています。そのせいか、無駄のない練習ができました。風はどうかって、もちろん、8~12ノットのいい風に決まっています！



今回イベント用に配布されたトレーニングガイド。事前に練習内容を周知することによって中身の濃い練習ができます。複数のクラブがよくまとまってくれました。でもやることはどこのクラブも同じなんです。



朝のブリーフィング。今日のメニューを天候を予測して発表します。青空も広がっていい練習ができる予感があります。





セーリング体操。セーリングのために作った体操が実はあるんです。吉澤一彦作監修。今回は3日間、保護者も含めて一緒に体操しました。おかげさまで、怪我なく快適に過ごしましたよ。この体操広まるといいな。



ウォーミングアップ



ダウンウィンド



スタート練習



アップウィンド

海上練習の様子。太陽が照ると海と空の青さが激変します。もうここはセーリング天国です。海水温は22°。沈してもへっちゃら！全然寒くないんです。選手たちの集中力も凄かった。そして、何より選手たちが楽しそうにセーリングする姿が印象的でした。





何やら前田代表が楽しそう！後ろから選手たちが懸命に走ってます。これ実は、練習後の競技規則のテストで1間でも間違えるとランニングのペナルティが課され、それを解消している場面なのです。そうしないと最終日に賞品をゲットする資格を失ってしまうんですね。でも選手はなぜか笑いながら走っていました。



練習終了と思いきやここから最後の締めみたいです。海へドボン、ドボン、ドボン。



結局こうなります。誰が洗って乾かすのかな？保護者の方ご苦労様でした。



12月27日（水） 3日目

今日は竹富島までのクルージングです。総勢38名がOP艇とサポートボートに乗って目的地を目指します。行きはダウンウィンドで6km。帰りはアップウィンドで8.5km走ります。普段これだけ長い距離を走ることはありませんが、これも練習の一環です。竹富島に着いたら昼食をとって、食後に南国カフェでスイーツ。島内観光、ダイビングもします。



伝わっているでしょうか？この大自然の中で一丸となってセーリングしている姿。そして、空の青さ、海の美しさ、白い帆に風を受けて走る子どもたち。もう竹富島は目の前です。





竹富島には何とパーラーがあるんです。ここでは一年中かき氷が食べられます。他にはパフェやアイスクリーム、ケーキ、フレッシュジュース、生ビールもあります。お越しの際には是非お寄りください。それにしてもこのかき氷、頭よりもデカくない？そしてこの何とも嬉しそうな顔、お腹こわさないでね。



竹富港内に係留したサポートボートからダイビングします。海の中は撮影できなかったけど、ここ八重山諸島はどこでもダイビングができるくらいいろんなスポットがあります。運がよければ、ウミガメやマンタに出会えるそう。昔はジンベイザメも泳いでたとのこと。





西棧橋 夕陽が綺麗



牛車で観光 有名な景観です。



一年中花が咲いています。

ここ竹富島は石垣島から船で10分程度で着く観光スポットです。殆どが平坦地で中に入ると時間が止まってしまっているような感覚になってしまいます。ここには沖縄の古い原風景が残されています。それは竹富島憲章で島の景観が守られているからなんです。この憲章実は、長野の妻籠宿の憲章を元に作られていて、今でも竹富島と妻籠宿は深い関係にあるんですよ。

## 12月28日（木） 4日目

今日はいよいよ最終日。練習の成果を出す『トモダチカップ』レースの日です。午前中は軽く練習をして、午後からのレースを予定していましたが、悪天候が予想されたため、急遽午前中にレースを行うことにしました。さあ、行き着く先には豪華な賞品があります。気合いを入れて頑張るぞー！



シグナルボートは10人乗り。レース委員長、タイムキーパー、フラッグ、テクニカル委員長他、合計5人が乗り込んで運営しています。結構本格的です。あいにくの天気で視界も悪く、これ以上悪くならないことを願っています。





笛のチェックを受けるリュウイチ



アかくみのチェックを受けるイオリ

海上計測の様子。シグナルポートには国際クラスの計測員が乗っています。賞品ゲットの最後の難関が待ち伏せていました。ここでペナルティをもらえると賞品がもらえません。各レース2名ずつ。石垣島のOP史に残る初めての海上計測となりました。結果全員ペナルティはなし。よかったね！

レースは3レース行われ、無事終了しました。栄えある第1回大会の優勝者は地元、石垣ジュニアヨットクラブの中野瑠一選手です。彼は石垣ジュニアの第1期生で見事、有終の美を飾ってくれました。今年から和歌山の高校でヨットを続けるそうです。以下3位まで発表します。

- |    |       |                |
|----|-------|----------------|
| 優勝 | 中野 瑠一 | (石垣ジュニアヨットクラブ) |
| 2位 | 林田 大和 | (大阪ジュニアヨットクラブ) |
| 3位 | 星野 武蔵 | (宜野湾はごろも海洋少年団) |

さあ、最後は場所を変えて、表彰式と懇親会が行われます。盛り上がるぞ～



表彰式。賞状は後援である石垣市が用意してくれました。副賞として、リュウイチはパドジャケ、ヤマトはワンセールオリジナルステンレスボトル、ムサシはヨットタイマーをゲットしました。やったね！





三線の生演奏。選手のお父さんです。エンターテイメントとしては最高ですね。石垣ジュニアの保護者はほんとキャラが濃くて皆さんキラキラ光ってました。でも石垣島出身ではない人も多いんです。実は石垣市は人口が増えている数少ない市で若い人も数多くいます。もしかしたら、将来、イベントが縁で石垣島に住む人も出てくるかもしれませんね。



最後は全員で集合写真。別れは悲しいけど、また、来年も企画しています。また来年会いましょう。

こうして、第1回IOM2023は大成功のうちに終了しました。改めて感じたことは、石垣島はセーリングをする最高の場所なんだと。温暖な気候。止むことのない風。最西端に位置しているため、日没が長いこと。しかし、環境はまだまだ整っていません。そして、艇の数もまだまだ足りません。IOM2023の応募もかなり限定した形で行わざるを得ませんでした。レースが行えるIOD95仕様の艇がもっともっと必要です。もし、艇庫に眠っている艇があれば、譲ってください。よろしくお願ひいたします。



## 終わりに

中山義隆石垣市長を先頭に石垣島では2025年OP級の全日本大会開催を目指しています。正式決定までにはまだ少し、時間がかかりそうですが、是非とも実現したいと思っております。



2025の大会で予定されているレース海面。ここは石垣港フィッシャリーナから南側に位置する広大なエリアです。



この砂浜から80艇のOPが一斉に出ていくことは、日本のOPの歴史を変えることになるかと確信しています。